

第 6 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日 時 平成20年10月17日(金) 5校時
児 童 男10名 女13名 計23名
指 導 者 田 中 元 明

1 主題名 生命の尊重 3－(2) 生命尊重

2 資料名 「東京大空襲の中で」 (明日をめざして 道徳 6年 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の道徳の内容3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の項目(2)は、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」である。

高学年になると生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。それらを通して、生命のかけがえのなさを自覚できるようにすることが重要である。人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さを知ることから自他の生命を尊重し、力強く生きぬこうとする心を育てるとともに生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。

(2) 児童について

児童は、1年生と遊んであげたり、縦割り班のリーダーとして下級生のお世話をしあげたりして、高学年としての自覚が高まりつつある。しかし、同級生同士のかかわりの中でうまくいかないことがあると、「死ね」という言葉を使ってしまう児童が少数いる。「死」という言葉の重みや意味を感じ取らせる必要があると考えている。

また、1学期には、「ラッシュアワーの惨劇」を通して生命尊重について学習した。授業前のアンケートでは、ゲームの世界やテレビなどで報じられる「人の死」に対して「別の世界の出来事のような。」と感じていた児童が約8割いたが、学習後、男性を助けようと線路に飛び降りた関根さんとスヒョンさんの勇気ある行動に胸を打たれるとともに、大事な息子を失った両親の悲しみから、命の重さや尊さを感じ取ってきている。

そのうえに立って、生命尊重に対する意識を深化し、自他の生命の大切さにもふれさせていきたい。

(3) 資料について

本資料は、1945年の東京大空襲での出来事を取り上げている。戦争で尊い命を失った人の数はおびただしいものである。一夜にして家を焼かれた人が100万人、亡くなった人が10万人というすさまじさは、まさに想像を絶するものがある。こうした中で小さな生命が誕生した。この生命を守るために母親はもとより、医師、看護婦が献身的な努力をした。自分の身が危険にさらされても、医師は医師として、看護婦は看護婦として、そして母親がそれぞれ一人の人間として、他人の生命を守るために一生懸命に行動していくのである。

自分の命を守るだけでも難しい猛火の中で、他者の命を守ろうとする人々の崇高さ、命の尊さを感じ取らせたい。

4 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

①本時の位置づけ（道徳的実践活動の活動計画より）

	道徳的実践活動の ねらい	第1段階 道徳的価値への 気づき	第2段階 活動・体験	第3段階 道徳性の高まり
10月	日本の歴史背景にある事実を理解し、当時の人々が体験したことから命を大切にしようとする態度を育てる。	【社会科】 単元名 「戦争から平和への歩みを見直そう」 戦争の経緯やそれが拡大していく状況、被害の大きさなどをとらえ、戦争の悲惨さから命を軽く扱ってきた現実を知り、疑問を感じさせたい。また、日本とアジアのかわりについて考えるとともに国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たすようになってきたころの様子と人々の暮らしについて理解と関心を深める。	【社会科】 「戦争体験から学ぼう。」 戦中・戦後を生きた人の話を聞きながら当時の社会の様子や人々の暮らし、思いについて、興味・関心を深めるとともに戦争中に自分の命を大切にするための努力について感じ取る。	【道徳の時間】 3－（2） 生命尊重 「東京大空襲の中で」 生きとし生けるものを慈しみ、かけがえない生命を大切にしようとする態度を養う。 本時

②指導の手立て

本時は、第3段階「道徳性の高まり」にあたる。

これまで、第1段階「道徳的価値への気づき」では、社会科「戦争から平和への歩みを見直そう」（教育出版：第6学年）の学習で戦争の歴史や様子などを学び、当時の人々の苦しさやつらさを理解し、二度と戦争を繰り返してはならないという願いをもつことができた。

また、第2段階「活動・体験」では、戦争を体験した方の話を聞き、戦争の激しさのなかで命を守るために、生きるために、どのようなことを行ってきたのか、当時の詳しい生活の様子などを感じ取り、子どもたちは、当時の人々の気持ちを考えて感想をもつことができた。

今までの学習活動で培ってきた戦争に対する思いや知識を生かし、本時の導入の価値への方向付けを図りたい。**【戦争を体験した方の話を想起】**

本時は、展開前段において、それぞれの立場の人たちが猛火の中で、なんとかしてでも命を救おうと懸命に行動する姿から命の尊さにせまりたい。そして、看護婦たちが患者を守る場面では、ワークシートに書かせて話し合い、生命を尊重しようとする強い意志と精神をつかみ取らせたい。

【書く活動】 展開後段では、前段で学んだことをもとにして、自分たちの生活をふり返させ、命のかけがえのなさについて、児童一人ひとりに考えさせたい。

終末では、生命のかけがえのなさについて押さえ、価値について深めたい。

(2) ねらい

生きとし生けるものを慈しみ、かけがえのない生命を大切にしようとする態度を養う。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 太平洋戦争について知っていることを話し合う。 ○太平洋戦争についてどんなことを知っていますか。	<ul style="list-style-type: none">・ 広島と長崎に原子爆弾がおとされた。・ 学童疎開が行われた。・ たくさんの命が失われた。・ 自分の命を守るために必死だった。	<ul style="list-style-type: none">・ 太平洋戦争では、たくさんの命が失われたことを確かめ、価値の方向づけを図る。 <p>【戦争を体験した方の話を想起】</p>
展開 25分	2 資料「東京大空襲の中で」を読んで話し合う。 (1) 赤んぼうをかかえて担架に乗せられた武者みよさんは、どんなことを考えたか。 (2) 江口院長の「患者を殺して、医者が生きられますか！」という言葉はどう思うか。 (3) 看護婦さんたちはどんな気持ちで「ここには患者がいるんです。」と叫んだ	<ul style="list-style-type: none">・ この赤んぼうの命をどうしても守りたい。・ 自分たちだけ担架に乗せられて申し訳ない。・ 担架を捨てて逃げてください。 ・ 本気で人間の生命を大切に考えているんだな。・ 医者として、人間としてすばらしい。 ・ 患者や赤んぼうを最後まで守り抜こう。・ わたしたちの力の限り生命を守ろう。それがわたしたちの務めだ。	<ul style="list-style-type: none">・ 補説をしながら、戦争の恐ろしい状況をつかませる。・ 恐ろしい空襲の中での不安な気持ちについて共感させる。 ・ 江口院長の言葉に託された医師としての倫理観を十分に味わわせる。・ ただ単に患者を安心させるための言葉としてでなく、信念を持ち、身をていして患者を守ろうとしたことに共感させる。 ・ ワークシートに書かせることで生命を尊重しようとする強い意志と精神をつかみ取らせる。 <p>【書く活動】</p>
10分	3 自分たちの生活を振り返って話し合う。 ○人の命を守るために努力している人を見たり聞いたりしたことがありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none">・ 命というものは、どんなことがあっても守らなければならないものだ。・ 自分の命を大切にしよう。	<ul style="list-style-type: none">・ 最近の新聞やテレビで報道されている問題などにも触れ、「かけがえのない命」の尊さについて考えを深めさせる。

終 末 5 分	4 教師の説話を聞く。 ・相田みつをの詩「自分の番 いのちのバトン」を読み聞 かせる。		・生命のかけがえのなさにつ いて押さえ余韻が残る ようにする。
------------------	--	--	---------------------------------------

(4) 板書計画

猛火の中

命……かけがえない

- ・ 最後まで守りぬこう。
- ・ わたしたちの務め。

看護婦さんたち「ここには患者さんがいるんです。

江口院長「患者を殺して、医者が生きられますか！」

- ・ 患者の命を守るのが務め。
- ・ 当然のこと。

たんかに乗せられた武者みよさん

- ・ 赤んぼうの命を守りたい。
- ・ 助かるだろうか。
- ・ たんかをすててにげて。

東京大空襲の中で

太平洋戦争

アメリカ軍による三月十日の空襲

家を焼かれた人……百万人以上

死んだ人……およそ十万人

5 道徳資料分析表 「東京大空襲の中で」

《主要場面》

《登場人物の意識》

《児童の意識》

《意識の焦点化》

《主な発問》

猛火がせまる中、武者さんは生まれたばかりの赤んぼうとともに担架に乗せられた。

(武者さん)
○この赤んぼうの命をどうしても守りたい。
●自分たちだけ担架に乗せられて申し訳ない。
●担架を捨てて逃げてください。

・こんな大空襲の中で赤ちゃんを産むなんて大変だな。
・なんとか助かってほしいな。

恐ろしい空襲の中で不安な気持ちと赤んぼうを守りたいという気持ちに共感させる。

(1) 赤んぼうをかかえて担架に乗せられた武者みよさんは、どんなことを考えたのでしょうか。

「病院に残してくださいでもいいんです。」と言う武者さんに対し江口院長は「患者を殺して、医者が生きられますか!」と言う。

(江口院長)
○生命は何よりも大切なもの。なんとかして母子ともに守らなければならない。

・本気で人間の生命を大切に考えているんだな。
・江口院長は、医者としてすばらしい人だな。

自分の命の危険を顧みず、患者と赤んぼうの命を優先する江口院長の医者としての使命感と生命の大切さについて理解させる。

(2) 江口院長の「患者を殺して、医者が生きられますか!」という言葉はどう思いますか。

逃げる途中、山田婦長と看護婦たちは、患者を守ろうと必死に行動する。

(看護婦さん)
○どんなことがあっても患者さんと赤ちゃんを守り抜こう。
○力の限り生命を守りぬくことが私たちの務めだ。

・猛火とともに避難民が繰り出して、ふみつぶされそうな中で、力を合わせて患者さんと赤ちゃんを守ろうとするなんてすごいな。

患者と赤んぼうを必死で守ろうとする看護婦さんの使命感と生命の大切さについて理解させる。

(3) 看護婦さんたちはどんな気持ちで「ここには患者がいるんです。」と叫んだのでしょうか。